【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立開成小学校

1　前年度 評価結果の概要	**①　学級経営の充実」については、一定の成果が見られる。「生徒指導の徹底」については、「開成スタイル」を児童に浸透させ、地域の力を教育活動にも効果的に取り入れる。** **②「特別支援教育の充実と学力向上の推進」については、一定の成果が見られる。今後も、全職員で共通理解、共通実践を継続するほか、学力の二極化への手立てとして基礎・基本の定着を図る。** **③「心身の健康維持」については、保護者への啓発を図る。「自己有用感の醸成」については、現在の学びが将来につながることを意識させるよう、教育課程の工夫・改善を図る。**
2　学校教育目標	**豊かな人間力をそなえ、自ら学ぶたくましい子どもの育成　～心も体も「元気」な子ども～**
3　本年度の重点目標	**①生徒指導の徹底と学級経営の充実　　②特別支援教育の充実と学力向上の推進　③心身の健康維持と自己有用感の醸成**

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上をめざす。	・教職員間でマイプランを共有し、PDCAサイクルにもとづいた取り組みを推進する。	A	・学校評価（最終）「学力向上対策評価シートのマイプランを意識した授業づくりを行っている」に肯定的回答の教職員は95%であった。伝え活動のまなびの場の工夫に取り組むことができた。	A	・「学力向上対策評価シートのマイプランを意識した授業づくりを行っている」に肯定的回答が昨年度より高くなっており、教職員間で共有、学校全体での校内研究の成果が現れている。
	○校内研究の取り組みを柱とした主体的に学ぶ授業づくり	○単元テスト等で、「知識・技能」での75%以上をめざす。	・スキルタイムでのドリル学習を通して基礎基本の徹底を図る。問題解決の授業スタイルを共通理解し、次の学びに生かす授業づくりを行う。	A	・スキルタイムを年間30回以上実施し、学年に応じた四則計算の定着を図った。単元テスト等で、「知識技能」を75%以上達成できた。アンケート結果では、校内研究の充実により主体的に学ぶ児童が増えた。	B	・国語の長文を読むことは他教科の読解力につながると思うのでスキルタイムに取り入れてほしい。未達成の児童にも目を向けると共に、特に高学年にはなぜ勉強が必要なのか、勉強の必要性についても話をしつつ、自ら学ぶ意識を育ててほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケート「心の教育」に関する項目で、肯定的に答える児童75%以上をめざす。	・人権教室・人権学習会（平和・人権）・道徳等の授業を行い、人権尊重の感性を育てる。 ・参観日やフリー参観日において、ふれあい道徳の授業や人権学習等を感染予防に努めながら公開する。（地域連携）	A	・ふれあい道徳や人権教室は全学級で実施した。友達のがんばりや良さをカードに書いて紹介・掲示する「ぽかぽかの木」の取り組みを推進した。学校評価（最終）「『ぽかぽかの木』に取り組み、『ぽかぽか言葉』を使っていますか」に肯定的な回答の児童は89%であった。	A	・児童からよく「ぱかぽか言葉」という言葉を聞く。人権教室、心の教育は家庭、学校での大事な教育である。コロナの影響もあるが、積極的な地域との関わり、家庭も一緒になった取り組みもできたらいい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「開成小いじめ0宣言を守って生活している」に肯定的回答の児童75%以上。「いじめへの組織的対応を適切にしている」に肯定的回答の教師90%以上をめざす。	・「〇月のわたし」や「ほっとタイム」の活用、「気になる子」の情報共有による、いじめの未然防止や早期対応・再発防止に努める。 ・管理職を交えた複数の職員による事実確認や組織的対応をする。	A	・教育相談やいじめの未然防止を推進し、情報共有をして組織的早期対応を行った。学校評価（最終）「開成小いじめ0宣言を守って生活しますか」に肯定的な回答をする児童は85%、「いじめへの組織的対応を適切にしている」に肯定的回答の教師100%であった。	A	・教職員の人権意識の高さが児童のいじめ未然防止や早期発見に結びついている。児童達と積極的に向き合う時間の確保がいじめ撲滅につながると思う。担任だけでなく全職員やボランティアによる「小さな気付き」をこれからも大切にしてほしい。
	◎児童の自己有用感を醸成し、夢や目標の実現に向けて、意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	○学校評価アンケートで「夢や目標をもっている」に肯定的回答をした児童75%以上。 ○Q-Uテストで，不満足群の児童が10%以下をめざす。	・キャリアパスポートの活用と見通しをもった活動により自己の成長を振り返らせる。 ・Q-Uテストを2回実施し、変容をみとり、居心地のよい学級づくりへ活かす。	B	・夏期研修を生かして児童理解や学級経営を深め、11月実施した二回目のQ-Uテストでは不満足群の児童の割合が減少した。学校評価（最終）「キャリアパスポート目標を書きがんばったり自分の良さを生かしたりしている」に肯定的な回答をする児童は90%であった。	B	・自己肯定感は大人になってからも必要なものであり、今後も積極的に取り組んでもらいたい。保護者や先生方のように日頃多く関わる人からの言葉も大切なので地域の大人からの声かけも有用ではないか。
●健康・体つくり	❶「運動習慣の改善や定着化」 ❷「望ましい生活習慣の形成」 ❸「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	❶運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上。 ❷22時までに寝る児童が75%以上 ❸「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上	❶体育科の体つくり運動等の中で多様な遊びやスポーツチャレンジを紹介し、教師も子どもと一緒に外で遊ぶことを推奨し、運動習慣の向上を目指す。 ❷毎月初めに生活チェック週間を設けて、朝の時間に自分でチェックし、保護者、担任も確認することで、生活を振り返り、改善をめざす。 ❸給食時間の電子黒板の活用や献立を通した食に関する指導を行う。	A	・「1日に1時間程度運動している」に肯定的回答をする児童が80%であった。年間を通してスポーツチャレンジに積極的に取り組んだり、寒い時期にマラソン週間を取り入れたりすることで、子どもたちの運動習慣の向上を図ることができた。 ・「22時までに寝る」児童が82%であった。2学期末にゲームやネットの指導をした際、子どもたちの生活にゲームやネットの影響が大きいと分かったので、今後も保護者と協力しながら生活習慣の改善に努めたい。　・給食時間に電話黒板を活用したり栄養教諭が各教室を巡回したりすることで、食に関する指導を行った。	A	・県教育委員会から「体力・運動能力調査の部優良校」として表彰されており、これまでの取り組みが高く評価されている。・運動する児童としない児童の2極化を感じる。「家庭学習がんばり週間」のように「家庭運動がんばり週間」を設け、意識して外遊びをするようにしてはどうか。 ・ゲームやネットの影響もある中、児童用アンケート項目⑥・保護者用項目⑥とも80%以上という結果は、先生方の指導の成果だと思う。就寝時刻、食習慣については家庭での指導が重要になってくると思われ、保護者向けの講演会も有意義ではないか。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校等時間の上限（1か月45時間）以上が年間6か月を超えないようにする。守ることができたと回答する職員を80%以上にする。	・定時退勤日を金曜日に設定する。 ・退勤目標時刻19:00から逆算し，放課後の時間を効率的に使って業務にあたることを意識する。	B	・学校評価（最終）「金曜日の定時退勤を意識し、時間外勤務時間の削減に努めている」に肯定的な教職員は42%であった。9・10・11月の平均時間外勤務は昨年度より減少したが、個人差がある。積極的年休取得を呼びかけ12月の時間外勤務は平均26.6時間と減少した。	B	・コロナ禍で児童の学習や教職員の勤務等に協力体制を整えながらの対応で時間外勤務が増えたと思う。授業準備を学年担任で共有するなど具体的対策を検討してみてはどうか。
	○ICT利活用、行事、会議の精選	○職員会議や研修等にかかる上限時間を80分とし，遵守する。 ○各部から1つ以上の改善案を提言する。	・事前資料配付，電子掲示板等を活用し，提案の簡略化を図る。 ・3部会で削減の視点で話し合い，「例年通り」を改善する。	B	・「事前資料配布やischoolを活用した提案の簡略化や3部会で例年通りを改善し、業務精選に努めている」に肯定的回答の教職員は76%であった。ペーパーレスを推進するためにischoolの積極的な利用を心がける。また、部会等での業務削減に関しては具体例の紹介等を強化していきたい。	B	・ペーパーレス化は時代の流れであり、業務改善には必須と思われる。Ischoolを利用し、教職員アンケート項目⑫において「できている」が向上したらよいと思う。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言
○生徒指導と学級経営	○凡事徹底による規律ある生徒指導の確立と支持的風土のある学級づくり	○「開成スタイル」を実行していると答える児童75%以上をめざす。	・「開成スタイル」を提示し、全職員共通理解のもと、具体的な行動目標を挙げ、凡事徹底を図る。 ・「友達」「職員」「家庭・地域」との和を深める。	B	・「開成スタイル」への教職員からの呼びかけが82%、「開成スタイルを守って生活している」に肯定的回答の児童が93%であった。中間評価の時に比べて廊下歩行や無言そうじに課題が見られた。こころ部を中心に対応を検討中。3学期中に改善を目指している。	B	・授業参観時、整理整頓やトイレの清潔さ等に感心した。低学年時から「開成スタイル」を意識させることで、取り組みは浸透しているように思う。しっかり守っている児童への声かけも大事だと思う。
○特別支援教育の充実	○特別支援学級における効果的な指導や通常学級在籍で個別支援を要する児童への支援	・意欲的に学習をすることができたかどうかを児童に4件法で自己評価させ、3.0を目指す。1単位時間や単元等で自己評価させることで、実態を確認する。	・主に国語科と算数科において意欲的に学習できるように、個々の児童の特性に合わせて支援する。特別支援学級支援員・生活指導員やICT等も活用する。	B	・教材の工夫やワークシートの工夫、ICT機器を利活用しながら、一人一人のニーズに合わせた支援をすることができた。特別支援学級支援員や学校生活指導員の日々のきめ細やかな支援により、意欲的に学習に取り組む様子も見られた。	B	・授業参観でもICTを利用して工夫し、児童達が真剣に取り組んでいるのを実感できた。児童の特性に合わせ、個々に支援されている。継続して一人一人に合わせた対応をお願いしたい。
○地域連携教育の発展	○地域のひと・もの・ことを取り込んだ教育課程とふるさとのよさを実感する教育の推進	○学校評価アンケートで、「学校や地域のよさが分かる」と答える児童75%以上をめざす。	・学級通信、学校便り、メール配信、HP掲載により積極的情報発信を推進する。 ・地域との連携により学習指導要領に沿った教育活動を推進する。	A	・学校パンフレットの保護者・地域への配布やボランティアへの積極的広報を行った。学校評価（最終）「学校や地域のよさを説明することができる」に肯定的回答の児童は86%、「学校は保護者・地域の方との連携・協力に成果が出ている」に肯定的回答の保護者は91%であった。	B	・開成っ子支援ボランティア、登下校見守り等学校と地域の交流が多い。児童用アンケートでも全学年から地域の方への感謝の言葉があり、嬉しく思う。学校からの情報発信も良くされているが、給食の献立表をHPに毎月上げる等HPの充実とPRを行ってほしい。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	①「学級経営の充実」については、2回のQ-Uテストの実施や人権教室などの取り組みにより成果が見られる。「生徒指導の充実」については、凡事徹底の意義や「開成スタイル」を児童に浸透させ、更なる指導改善を目指す。 ②「特別支援教育の推進」については、授業公開や講師招聘研修等を生かして児童の特性に合わせた学習形態や過程を再考し、教具・ICT活用等を工夫した支援に成果が見られた。「学力向上の推進」に関しては、全国・県学習調査の結果分析を生かして学力の二極化への手立てとして基礎基本の定着や問題設定や学び合いの工夫を今後も継続していく。 ③「心身の健康維持」についてはスポーツチャレンジの取り組み、生活チェックや食に関する指導、保護者啓発により成果が見られた。「自己有用感の醸成」については、キャリア・パスポートの活用や地域人材活用授業を継続し、現在の学びが将来につながるよう意識させるように教育課程の工夫・改善を図る。